

けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。 「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する
情報をお知らせします～



畑の土も管理して
皆さんに春の恵みをお届けしています。



栽培わらび(二本松市伊佐沼町)



小坂アグリ株式会社が 「平成29年度飼料用米多収日本一コンテスト」で 東北農政局長賞を受賞しました！

平成30年5月8日(火)、国見町小坂の「小坂アグリ株式会社(以下「小坂アグリ」という。)」事務所において、「平成29年度飼料用米多収日本一コンテスト」の東北農政局長賞の伝達が行われました。

「平成29年度飼料用米多収日本一コンテスト」は、農林水産省が主催し、飼料用米生産技術の水準を向上させるため、多収を実現している先進的かつ他の模範となる経営体を表彰してその成果を広く紹介することを目的に開催されています。

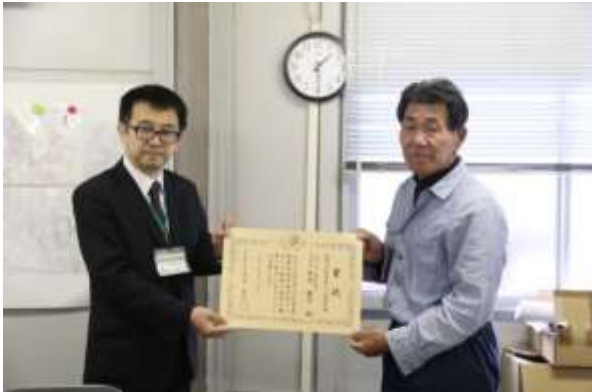
このコンテストには、全国の飼料用米の多収品種を概ね1ha以上を生産し、コスト低減等に取り組む経営体460件(伊達地方からは5件)が参加した中で、小坂アグリが地域の基準単収(506kg/10a)の1.5倍となる753kg/10aを挙げたことが評価され、このたびの受賞となりました。

小坂アグリでは、大豆を2年間栽培したほ場約6.2haに多収品種「ふくひびき」を作付けし、土壌改良資材(リンスター)を春耕時(4月中旬)に10kg/10a施用するとともに、基肥として窒素成分で10kg/10a相当量の肥効調節型肥料を田植え時に側条施用する肥培管理を行くことにより、高単収を実現しています。

平成30年度からの米政策は、これまでの国からの生産数量配分に代わり、福島県水田農業産地づくり対策等推進会議が、市町村、関係機関・団体と協力して、生産数量の目安を示す方式に変わりました。そのため、需要に即した飼料用米等の非主食用米の生産や、地域戦略作物など作付けを通して米の需給安定を保つことが今まで以上に求められます。

当事務所伊達農業普及所では、飼料米の多収化技術や園芸品目の栽培管理指導等を通して支援をしてまいります。

(伊達農業普及所)



東北農政局長賞受賞の様子

(左側 東北農政局 石橋地方参事官、
右側 小坂アグリ 朽木代表取締役)



飼料用米（ふくひびき）収穫の様子

平成30年度新規就農者激励会が開催されました！

平成30年5月10日（木）、福島市のA・O・Z多目的ホールにおいて「平成30年度新規就農者激励会」が開催され、新規就農者10名が出席しました。

今年度の24名の新規就農者は、年齢やこれまでの経歴が様々で、経営品目も多岐にわたります。出席した10名の新規就農者からは、福島県農業総合センター果樹研究所での長期就農研修や、アグリカレッジ福島での学びを活かすことや、新たに農業を始める決意など、就農理由や将来の展望等が語られました。また、来賓からは新規就農者への激励の言葉があり、先輩となる福島市内の青年農業者からは市内の各農業後継者クラブの活動が紹介されました。

当事務所としましては、新規就農者の支援を行うとともに、今後も農業の魅力の発信や就農意欲向上のための様々な活動を通して新規就農促進に努めてまいります。

(農業振興普及部)



新規就農者と来賓による記念撮影



就農への思いを伝える新規就農者

「福島地域酒米研究会」が第一回総会を開催しました！

平成30年4月27日（金）、ふくしま未来農業協同組合野田支店において、昨年発足した「福島地域酒米研究会」の第1回となる平成30年度総会が開催され、会員16名が出席しました。

総会では、丹野友幸会長が「昨年、研究会が発足したことにより、それまで個々に活動していた酒米生産者同士が情報交換を出来るようになった。」と述べた後、有限会社金水晶酒造店や生産団体、国立大学法人福島大学経済経営学類小山良太ゼミナールの学生が、今年度の活動計画を発表しました。

議事では、平成29年度の実績のほか、平成30年度の事業計画や予算計画が検討され、今年度は新たに販売促進グッズの製作や酒米研究会としての稲刈りイベント、新酒お披露目会を行うこと等が承認されました。また、調査ほ場も昨年までの福島市松川町の2カ所に加え、飯坂町と荒井地区にも確保し、各地で良質な酒造好適米の生産を目指すこととなりました。

当事務所としましても、酒米研究会の活動がより発展し、多様な需要に応えられる「お米」の産地となれるように、引き続き支援してまいります。

（農業振興普及部）



丹野会長による挨拶



会員が関わって出来た日本酒



福大生による今年の計画発表！



(有)金水晶酒造店杜氏の菅野氏

平成30年度「田んぼの学校 開校式・田植え」が行われました！

平成30年5月18日（金）、福島市立飯野小学校の敷地内学校田において、「田んぼの学校 開校式・田植え」が行われました。

この事業は、農村地域の重要な要素である自然環境を学びの場として活用し、年間を通した米作り、生きもの調査等の体験型学習や農業施設見学を行う取組で、県が実施する「ふくしまの農育」推進事業を活用して、県北農林事務所と共同で、「総合的な学習の時間」の一環として5年生児童を対象に実施されるものです。

開校式では、高野久 田んぼの学校長、佐久間善一 飯野小学校長や当事務所長が挨拶し、「食べものや命の大切さ」「自然や生きもの大切さ」「ふるさとや地域の大切さ」について一年間学んでほしいとの話がありました。

その後、高野氏から苗の植え方を教わり、児童たちは田んぼに入って、恐る恐る苗を植えていきました。

田植え後の児童からは「泥の感触が始めは気持ち悪かったけど大丈夫になった。」「田植えは初めてだったけど出来てよかった。」などの感想が出ました。

また、高野氏からは「児童全員が初めて田植えをしたが例年になく上手に出来た。」との講評をいただきました。

（農村整備部）



開校式の様子



高野氏から田植えの説明を受ける児童たち



田植えの様子



上手に田植えをする児童たち

国見小学校の児童が学習田に「天のつぶ」を田植えました！

平成30年5月11日（金）、国見町立国見小学校学習田の田植えが行われ、5学年の児童63名が本県水稲オリジナル品種「天のつぶ」の苗を丁寧に手植えました。

学習田は、「地域を知る、農業への理解を深める」ため、総合学習の一環として小学校が企画し、小坂アグリ株式会社（以下、「小坂アグリ」という。）と国見町役場が運営協力しています。当日は、ふくしま未来農業協同組合国見営農センターと当事務所伊達農業普及所の職員が田植えを指導しました。

児童は、小坂アグリの朽木勝之代表取締役から田んぼでの注意事項、苗の持ち方や植え方等の説明を受けた後、一列に並んで田植えをしました。最初は、裸足で田んぼに入り、慣れない感触に戸惑う児童もいましたが、しばらくすると、全員が上手に苗を植えることができました。

田植え後、児童から田植え体験での喜びや驚きなどの感想発表があり、農業への関心の高まりが伺えました。最後に出席者を代表して朽木勝之代表取締役から、「子どもたちには田植えや稲刈りを通して地域の農業や米作りをもっと知ってもらいたい。」との話がありました。

秋には、学習田の稲刈り体験と収穫祭が予定されており、そちらも支援してまいります。

（伊達農業普及所）



田植えの説明をする朽木代表取締役（右側）



田植えの様子

大玉村で田植えツアーが行われました！

平成30年5月19日（土）、大玉村大山にて、首都圏で展開する「スーパーいなげや」主催の田植えツアーがふくしま未来農業協同組合の協賛で行われ、「いなげや」の利用者9家族（35名）がツアーに参加しました。

参加者を乗せたバスは昼過ぎに大山公民館に到着し、歓迎セレモニーが行われました。歓迎セレモニーではふくしま未来農業協同組合安達地区担当常務理事 菅野徳一郎氏、いなげや商品本部チーフマーチャンダイザー 高橋一郎氏から歓迎の挨拶があ

り、集合写真を撮影の後、昼食となりました。昼食には、中通り産コシヒカリで作ったおにぎりや、大玉村産アスパラガス・二本松市産しいたけの天ぷらなどが振る舞われました。また、当事務所安達農業普及所職員が、米の全量全袋検査のパンフレットを配布し、その概要と福島の米の食味などの特徴を説明しました。

その後、田植えが行われるほ場へ移動し、菅野治正 稲作部会長から田植えの説明が行われた後、田植え開始となりました。初めて田んぼに入った子供たちは泥や水の感触を素肌で感じ歓声を上げ、慣れない田植え作業を楽しんでいました。田植え作業の後、田植機の試乗体験が行われ、子供たちは初めて見る田植機の大きさや作業のスピードに圧倒されていました。参加者からは、「農作業の苦労を再認識することができた。」「普段何気なく食べているお米をもっと感謝して食べたい。」といった感想が聞かれました。

(安達農業普及所)



田植えをする参加者たち



田植機試乗体験の様子

間伐の低コスト化を推進しよう！

人工林の手入れをお考えの皆さまへ、「列状間伐」をおすすめします。

県北地方のスギ、ヒノキ人工林の多くが成熟期を迎え、県では低コストでの間伐を推進しています。

「列状間伐」は、間伐率に応じて伐採量を定める「定量間伐」の代表的な手法で、名前のとおり列ごとに伐採します。例えば1列伐採して2列を残すことで間伐率が33%となります。列状に伐採するため、山にバリカンを入れたかのようになります。

また、かかり木の発生が少ないことから、経済性だけでなく、労働安全性の向上が期待できます。

そのため、当事務所では、平成30年5月10日(木)に「列状間伐」をモデル的に実施した二本松市針道の県行造林地において、市町村担当職員の現地研修会を開催し、地形等条件に応じた採択の考え方、施業方法などを説明しました。

今後は県営事業及び市町村営事業による「列状間伐」に取り組み、更なる普及を推進します。

(森林林業部)



列状間伐施行状況



間伐現地研修会

あたらの里直売所・お食事処たまちゃん

グランドオープンセレモニー開催！

平成30年4月28日(土)、大玉村産業振興センターにおいて「あたらの里直売所・お食事処たまちゃん グランドオープンセレモニー」が、多数の来賓及び関係者の出席のもと開催されました。

主催者として大玉村長、来賓として大玉村議会議長、福島県知事(当事務所長代読)などの挨拶がありました。その後、建設に携わった有限会社真島建築設計事務所、菅野建設工業株式会社に対する感謝状贈呈が行われました。

また、食堂ネーミング表彰も併せて行われ、最優秀賞等に選ばれた応募者の方に対して表彰状が手渡されました。

お食事処たまちゃんにおいては通常600円のカレーが300円で提供されたほか、直売所では新鮮な農産物が販売され、連休初日ともあって多くのお客さんでにぎわいました。

(企画部)



佐藤県北農林事務所長の挨拶



オープンした「お食事処 たまちゃん」

川俣町山木屋地区で飼料用米直播栽培の播種作業が実施されました！

平成30年5月10日（木）、川俣町山木屋地区において、福島県農業総合センター浜地域再生研究所（以下、「浜再生研」という。）が設置した飼料用米の鉄コーティング直播栽培実証ほ20aにおいて、担当農家の農事組合法人フツテファームによる播種作業が、株式会社南東北クボタの協力のもと行われました。

標高が約530mの中山間地である山木屋地区で水稲直播栽培が行われるのは初めてで、さらに原発事故後初の作付となることもあり、担当農家に対して詳細な打合せと技術指導を行った上での播種作業となりました。

実施にあたっては、除染後農地の課題であるほ場均平度の低さ及び作土層のバラツキ対策のため、均平作業、荒代かき及び代かき作業が丁寧に行われました。また、今後の品種選定の参考とするため、「まいひめ」「べこごのみ」「里山のつぶ」「えみゆたか」「みなゆたか」の5品種を播種しました。

担当農家からは、「除染後初めて水稲を作付する場合の参考となるよう、課題の洗い出しをしてほしい」との意見をいただきました。

当事務所としましては、浜再生研と連携しながら、技術指導、データ採取を行い、山木屋地区の営農再開が一層前進するよう継続的な支援を行ってまいります。

（農業振興普及部）



飼料用米の直播栽培播種作業



播種された鉄コーティング粳（7～8粒播種）

6月10日は「全国植樹祭」に出かけてみませんか？

「全国植樹祭」は南相馬市だけではありません。当日は県内5箇所会場を設け、関連イベントが展開されます！！

各会場ではご当地グルメや楽しい体験コーナー、ステージイベントなど盛り沢山！

特にサテライト会場（県民の森・大玉村）では記念植樹に参加いただけます。南相馬市の本会場以外で植樹に参加できるのはここだけの企画！皆様お誘い合わせの上御来場下さい。

なお、サテライト会場へは無料シャトルバス（PLANT-5 大玉店発着）を御利用願います。

（森林林業部）

■日時 平成30年6月10日（日）

10:00～16:00

■場所

サテライト会場

ふくしま県民の森（安達郡大玉村）

※入場無料

※シャトルバスは9:30始発です！

PR会場

福島駅東口駅前広場（福島市）

ほか郡山市、白河市、会津若松市で開催

※すべての会場とも入場無料

■お問い合わせ先

第69回全国植樹祭福島県実行委員会

電話 024-521-8628

■URL :

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/syokujusai/>



お誘い合わせの上、皆様で
お越しください！

ペポカボチャ生産者会での栽培が始動！



平成30年3月に設立した「ペポカボチャ生産者会」(詳細は本紙第52号を参照)は、種子に硬い殻が無い「ストライプペポ」という種子食用品種を栽培する生産者15名の組織です。

当事務所伊達農業普及所では、ペポカボチャの生産振興のために、昨年度は新規栽培者募集から栽培指導、保原町商工会と連携した商品開発、専門家を招いての生産振興セミナーの開催、生産者組織の設立、栽培マニュアルの作成と、年間を通じて指導・支援を行ってきました。

今年度は4月13日(金)に9名の会員が参加し、有限会社三宝工業の育苗ハウスで栽培指導会と共同購入した種子の引き渡しを行いました。指導会は、早めに育苗を始めていたペポカボチャ生産者会の^{おさだ よしまさ}長田吉正会長の育苗ハウスで育苗の様子などを見学しながら、当事務所伊達農業普及所職員が播種から定植までの作業について説明しました。初めて栽培する会員からは多くの質問が寄せられましたが、長田会長や栽培経験のある会員がわかりやすく回答したことで、不安は解消されたようでした。

当事務所伊達農業普及所では、「ペポカボチャ生産者会」への指導等を通して、会員の知識・技術の向上や品質の平準化を目指し、安定した生産体制を整えるとともに、伊達地域の新たな特産品となるよう保原町商工会等と連携して「地産地商※」による6次化商品開発等を進めていきます。

なお、昨年度開発された6次化商品が次頁「けんぽくの6次化の取組紹介」に掲載されていますので、合わせてご覧ください。

※地産地商・・・「地元で生産したものを地元で商品化する」といった意義の造語

(伊達農業普及所)



ペポカボチャの断面(硬い殻の無い種子ができる)



ペポカボチャ苗を定植したほ場の様子(5月中旬)

けんぼくの6次化の取組の紹介

菓子舗いづみや

保原産ペポカボチャを使った焼きドーナツ！



前頁に掲載しました「ペポカボチャ生産者会での栽培が始動！」の有限会社三宝工業がペポカボチャと西洋カボチャをブレンドしたヘルシー※な「SANPEPO ペーストブレンド」とオメガ3脂肪酸を多く含む種子を香ばしく煎った「焙煎種子」を開発しました。 ※ペポカボチャはカロリーや炭水化物が西洋カボチャの3分の1！

昨年から伊達市の新たな特産品にしようと保原町商工会と連携し、ハロウィーン商品として8店舗でさまざまな商品が試作され、2店舗で実際に販売されました。

その取組に参加され、定番商品となったのが今回ご紹介する「ペポカボチャ焼きドーナツ」です。

製造販売されているのは、伊達市保原町にあるケーキ屋さん♪「菓子舗 いづみや」さんです。近隣で採れた新鮮な卵を使ったケーキやシュークリーム、焼き菓子が並んでいます。「ペポカボチャ」は水分が多くドーナツが膨らまないなどの苦労がありましたが、試行錯誤を重ね、しっとりとした甘さ控えめな美味しいドーナツに仕上がりました。

今年は、ペポカボチャの生産者会が設立され、生産量も増えると予想されるので、伊達地域でペーストや種子、油を使った新たな商品が益々増えて行くことを期待しています。

「ペポカボチャ焼きドーナツ」は、保原町内店舗の他、今年3月にオープンした「道の駅伊達の郷りょうぜん」でもお買い求めいただけます。

伊達市にお出かけの際は、ぜひ、お土産にどうぞ！

●事業者データ

菓子舗いづみや

〒960-0627 福島県伊達市保原町4丁目16

☎ 024-576-2048 FAX 024-576-2048



新顔のペポカボチャドーナツは売れ筋です！



種子の歯ごたえが味のアクセントに

その山菜、出荷して大丈夫ですか？

県北地方では、下記のとおり出荷制限指示が続いています！！
 再度確認のうえ、制限品目を出荷しないよう、御協力願います。

平成 30 年 5 月 15 日 現在

出荷制限品目	出荷制限市町村							
くさそてつ(ごみ)	福島市	二本松市	伊達市		桑折町	国見町	川俣町	大玉村
たけのこ	福島市	二本松市	伊達市	本宮市	桑折町		川俣町	大玉村
ふきのとう(野生)	福島市		伊達市	本宮市	桑折町	国見町	川俣町	
ぜんまい		二本松市					川俣町	
ぜんまい(野生)								大玉村
たらのめ(野生)	福島市	二本松市	伊達市	本宮市	桑折町		川俣町	大玉村
わらび			伊達市				川俣町	
わらび(野生)	福島市	二本松市						
こしあぶら	福島市	二本松市	伊達市	本宮市	桑折町	国見町	川俣町	大玉村
ふき(野生)					桑折町			
うわばみそう (野生)						国見町		

出荷が制限されている品目については、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷や販売は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。

なお、最新の情報は福島県ホームページなどで確認いただくか、当事務所にお問い合わせください。

◆ふくしま新発売。(農林水産物モニタリング情報) URL

<http://www.new-fukushima.jp/>

◆お問い合わせ先

福島県県北農林事務所 森林林業部林業課

電話 024-521-2632 FAX 024-521-2851

編集・発行 福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

